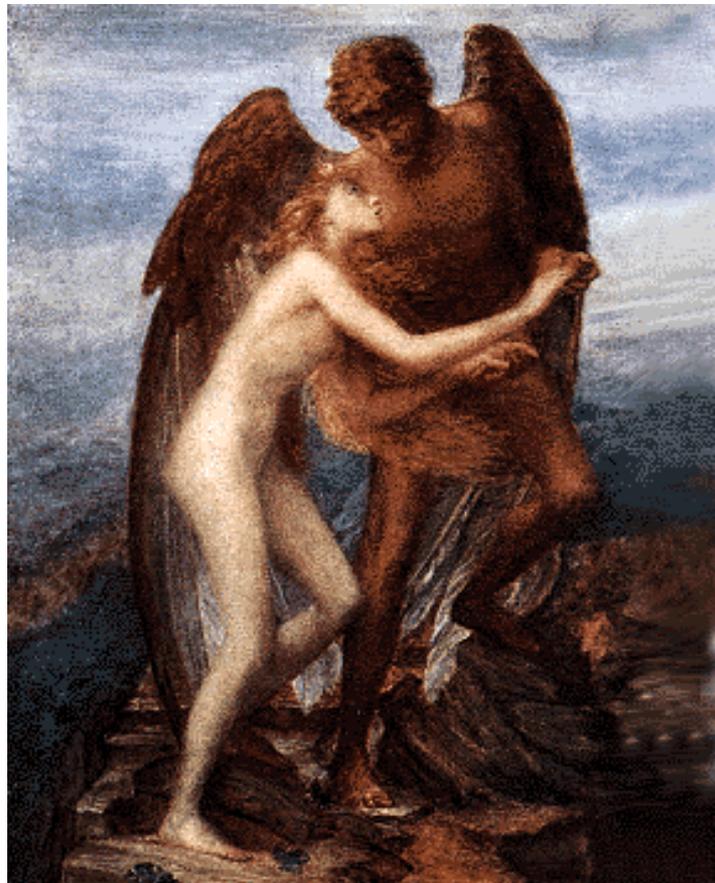


# 天界の秘義 第六章



6:1 さて、人が地上にふえ始め、彼らに娘たちが生まれたとき、

6:2 神の子らは、人の娘たちが、いかにも美しいのを見て、その中から好きな者を選んで、自分たちの妻とした。

6:3 そこで、主は、「わたしの霊は、永久には人のうちにとどまらないであろう。それは人が肉にすぎないからだ。それで人の齡は、百二十年にしよう。」と仰せられた。

6:4 神の子らが、人の娘たちのところにはいり、彼らに子どもができたころ、またその後にも、ネフィリムが地上にいた。これらは、昔の勇士であり、名のある者たちであった。

6:5 主は、地上に人の悪が増大し、その心に計ることがみな、いつも悪いことだけに傾くのをご覧になった。

6:6 それで主は、地上に人を造ったことを悔やみ、心を痛められた。

6:7 そして主は仰せられた。「わたしが創造した人を地の面から消し去ろう。人をはじめ、家畜やはうもの、空の鳥に至るまで。わたしは、これらを造ったことを残念に思うからだ。」

6:8 しかし、ノアは、主の心にながらっていた。

## 主題:洪水前の人々の状態

6:1 さて、人が地上にふえ始め、彼らに娘たちが生まれたとき、@我欲(娘)が支配し始めたとき

6:2 神の子らは、人の娘たちが、いかにも美しいのを見て、その中から好きな者を選んで、自分たちの妻とした。@信仰の教義に我欲を結合させてしまう。

6:3 そこで、主は、「わたしの霊は、永久には人のうちにとどまらないであろう。それは人が肉にすぎないからだ。それで人の齡は、百二十年にしよう。」と仰せられた。

@善と真理の遺宝が無くなるようになったとき、遺宝を持つために別の方法でこれらが造らなければならない

6:4 神の子らが、人の娘たちのところにはいり、彼らに子どもができたころ、またその後にも、ネフィリムが地上にいた。これらは、昔の勇士であり、名のある者たちであつ

@他と比べて自分が優れているという強烈な妄執に囚われた者がネフィリム

6:5 主は、地上に人の悪が増大し、その心に計ることがみな、いつも悪いことだけに傾くのをご覧になった。@善と真理の意志・感知が遺らなくなったとき

6:6 それで主は、地上に人を造ったことを悔やみ、心を痛められた。@主の憐れみ

6:7 そして主は仰せられた。「わたしが創造した人を地の面から消し去ろう。人をはじめ、家畜やはうもの、空の鳥に至るまで。わたしは、これらを造ったことを残念に思うからだ。」@彼らの我欲と妄執は致命的でことを証明しなければならない

6:8 しかし、ノアは、主の心にながっていた。@新しい教会が起こらねばならない

## 靈的・天的生命(の源)

幼児の時、主のみ言葉から学んで記憶に刻み込まれた善と真理

+

幼児の無垢

両親や教師、兄弟、友人への愛

隣人へのおもいやり

貧しい人、不自由な人への憐れみ

(人の我propriumと隔離され、主によって内的人に保存された善と真理のあらゆる状態)

自分や他人の優しい思い出、無垢なおもいやりを大切に。これを決して笑ってはなりません。殺すなかれ、盗むなかれ！  
これが人に天的生命を与えます。

他世にも遺されるだけでなく、この世で生きていたように回帰する。遺・回帰

記憶だけではなく、その無垢やおもいやりの状態が戻る！

## 562,3 妄執 persuasio 信条

自分が神であるという強烈で嫌悪すべき妄執

似たような人に会ったことはありませんか？  
自分自身がそうならないようにしましょう。

強烈な妄執を吹き込むことにより、周りの霊から思考能力を奪ってしまう。

善と真理を膠(にかわ)のように固く包み込んでしまい、役にたたなくしてしまう。

極限に達すると、ひとりでに消滅、洪水のように氾濫して窒息する。

主題:洪水前の人々の状態

6:1 さて、人が地上にふえ始め、彼らに娘たちが生まれたとき、@我欲(娘)が支配し始めたとき

565-  
人:当時の悪と墮落の人間

本来、主お一人が人、主から天的な人、あるいは天的な教会が、人とされた。遺宝によって人は獣から区別された。遺宝がなければ凶悪な野獣。

|             |                      |       |         |          |         |
|-------------|----------------------|-------|---------|----------|---------|
| אֲדָמָה     | 'a damh; dirt,ground |       |         |          |         |
| Facies Humi | 土の面                  | :教会   | アダムも地から | 創世記第二章から | 教義 内的礼拝 |
| Terra       | 地                    | :教会不在 |         |          | 内的礼拝不在  |
| אֶרֶץ       | 'erets; land         |       |         |          |         |

6:4ネフィリムも「地上 אֶרֶץ にいた。」

息子:真理 知覚  
娘 :善 意志

我欲は、知性によって治めなければならない。

意志の代わりに、我欲があり、彼らはそれを意志と呼んだと思われる。

真理の知覚力はなく、ただ妄想があり、知覚力よりも我欲が支配する。(女性)  
知性・理性が支配する。(男性)  
→今日、善の意志が皆無となり、我欲だけがある。しかし知的なもの理性的なものが与えられている。→ユダヤ教会では、夫に特権が与えられ、妻は従う、とされている。

6:2 神の子らは、人の娘たちが、いかにも美しいのを見て、その中から好きな者を選んで、自分たちの妻とした。@信仰の教義に我欲を結合させてしまう。

569-

神の息子:信仰の教義的なもの

娘:我欲

信仰の教義に我欲をとりこんでしまう。神聖な教会の真理を我欲の内に浸し汚す。その上、強烈な妄執によって造りあげた教条で確認する。

すさまじい妄執:合理性は通用せず、我欲だけ。周りに存在する霊の合理性を殺してしまう。

571 信仰の真理を狂った我欲の内に浸してしまうと、真理を冒とくし、遺宝を消滅させてしまう。遺宝は前面に出てくることはないが、もし前面に出てくると、たちまち冒とくしてしまう。みことばの冒とくは、分厚い皮のようなものを造り、障碍となり善と真理の遺宝を吸収してしまう。

「主のみ言葉の冒とくに注意して下さい！

そこには生命である主の真理が含まれています。

み言葉に対する自分の態度を反省してみましょう。

神に対する畏れはありますか？

冒とくへの恐怖はありますか？

第二戒:神の御名を虚しくしていませんか？(TCR297,298)

「あなたは、あなたの神、主の御名を、みだりに唱えてはならない。

主は、御名をみだりに唱える者を、罰せずにはおかない。」

6:3 そこで、主は、「わたしの霊は、永久には人のうちにとどまらないであろう。それは人が肉にすぎないからだ。それで人の齢は、百二十年にしよう。」と仰せられた。

@善と真理の遺宝が無くなるようになったとき、遺宝を持つために別の方法でこれらが造らなければならない

573

𐤎𐤍

人のうちに留まる: 𐤎 diyn 裁く 争う

著作: arguo 責める 咎める 英訳reprove

アルカナ訳 言い争う? (いつまでも人と言い争うことはない)

良心がその代わりになり言い争うことが可能になった??

→エホバの霊は、永久に人を咎めない、

エホバの霊: 真理と善の流入

エホバの霊による叱責: redarguionem a spiritu Jehovah

redarguo 偽りであると証明する

→内的命令 感知力、洪水後、良心

もはや彼らが内的命令(感知力)で偽りであることを証明できない、すなわち、彼らは悪を知ることができない。

574 なぜなら彼らは肉体的物質的になりすぎてしまったから。

6:3 そこで、主は、「わたしの霊は、永久には人のうちにとどまらないであろう。それは人が肉にすぎないからだ。それで人の齡は、百二十年にしよう。」と仰せられた。

@善と真理の遺宝が無くなるようになったとき、遺宝を持つために別の方法でこれらが造らなければならない

575

120=10x12

10; 主によって内的人に保存された遺宝

12; 信仰と信仰に関するものすべて

マラキ3:10 十分の一をことごとく、宝物倉に携えて来て、わたしの家の食物とせよ。こうしてわたしをためしてみよ。――万軍の主は仰せられる。――わたしがあなたがたのために、天の窓を開き、あふれるばかりの祝福をあなたがたに注ぐかどうかをためしてみよ。

祝福はすべて遺宝からやってくる。

申命記10:4 主は、その板に、あの集まりの日に山で火の中からあなたがたに告げた十のことばを、前と同じ文で書きしるされた。主はそれを私に授けた。

板; 内的人

遺宝はすべて主のもの

ノアと呼ばれる教会が遺されなければならない。

6:4 神の子らが、人の娘たちのところにはいり、彼らに子どもができたころ、またその後にも、ネフィリムが地上にいた。これらは、昔の勇士であり、名のある者たちであった。

@他と比べて自分が優れているという強烈な妄執に囚われた者がネフィリム

ネフィリムとは自己の傲慢さと優秀さを通して、神聖で真なるものを軽んじる者で、これは信仰の教義を我欲の内に浸し、偽りの妄執をつくったときに出てくる。彼らは自己愛から強者と呼ばれ、以前からそうであった。

→隔絶したおそろべき妄想から、あらゆる霊を殺し窒息させた。(毒々しい息をつまらせるようなスフィアを醸し出す)

思考力を奪い去り、半死のようになってしまう。主が世に来られて、かの毒々しい人種から霊の世界を解放し、続いて主によって霊を通して支配されている人類を解放しなければ、滅んでいた。

紀元前の世界と紀元後～最後の審判の世界??

民数13:33 そこで、私たちはネフィリム人、ネフィリム人のアナク人を見た。私たちには自分がいなごのように見えたし、彼らにもそう見えたことだろう。

申命記2:10 ――そこには以前、エミム人が住んでいた。強大な民で、数も多く、アナク人のように背が高かった。

2:11 アナク人と同じく、彼らもレファイムであるとみなされていたが、モアブ人は彼らをエミム人と呼んでいた。→レファイム

רִפְאִיִּם

イザヤ14:9 下界のよみ(影・幽霊: レファイム)は、あなたの来るのを迎えようとざわめき、死者の霊たち、地のすべての指導者たちを揺り起こし、国々のすべての王を、その王座から立ち上がらせる。

イザヤ26:14 死人は生き返りません。(影・幽霊: レファイム)の霊はよみがえりません。それゆえ、あなたは彼らを罰して滅ぼし、彼らについてのすべての記憶を消し去られました。

イザヤ26:19 あなたの死人は生き返り、私のなきがらはよみがえります。さめよ、喜び歌え。ちりに住む者よ。あなたの露は光の露。地は死者(影・幽霊: レファイム)の霊を生き返らせます。

詩編88:10 あなたは死人のために奇しいわざを行なわれるでしょうか。亡霊死者(影・幽霊: レファイム)が起き上がって、あなたをほめたたえるでしょうか。セラ

6:4 神の子らが、人の娘たちのところにはいり、彼らに子どもができたころ

信仰の教義を欲念に浸したとき彼らはネフィリムとなった。

我欲は決して根絶されず、分離もできない。あらゆる考えにまとわりつき、他生ではその考えは次から次へと伝わる。神聖で真理である考えが起こった瞬間、冒とくと虚偽がそれに加わり、それが感知されてしまう。そのような人は分離され、地獄に突き落とされる。

神聖という感覚は、きわめて大切にしなければならない！  
結婚愛・み言葉・礼拝・主の御名  
神聖なもの・真理は、畏れて心から敬う態度が必要。

エレミア 46:5 何ということか、この有様。彼らはおののき、うしろに退く。勇士たちは打たれ、うしろも振り向かずに逃げ去った。恐れが回りにある。――主の御告げ。――

46:6 足の速い者も逃げることができない。・・・ 46:9 馬よ、上れ。戦車よ、走れ。勇士たちよ、出陣だ。盾を取るクシュ人、プテ人、弓を引き張るルデ人よ。

推論による妄想

申命9:1 聞きなさい。イスラエル。あなたはきょう、ヨルダンを渡って、あなたよりも大きくて強い国々を占領しようとしている。その町々は大きく、城壁は天に高くそびえている。

9:2 その民は大きくて背が高く、あなたの知っているアナク人である。あなたは聞いた。「だれがアナク人に立ち向かうことができようか。」      ネフィリムに属した者

6:5 主は、地上に人の悪が増大し、その心に計ることがみな、いつも悪いことだけに傾くのをご覧になった。@善と真理の意志・感知が遺らなくなったとき

585-

人の悪が増大：他人によかれと願っていたので、そんなに悪化してはいなかった。但し他人のためではなく、自分のため！

しかし悪化が極大に至ったことが、「心に思いつく目的」によって意味される。

人に良かれと願い、行うことが、自分の為であるならば、それは悪！

その心に計ることがみな、いつも悪いことだけに傾く

→ Figmentum cogitationum cordis 心が考え出した虚構

感知力は全く消滅し、その代わりに、恐るべき妄執がその代わりとなった。

最も根深く致命的な妄執

心が考え出した虚構 Figmentum cogitationum cordis

致命的妄執

心の虚構

Figmentum cordis

自己愛の悪と我欲

8:21 主は、そのなだめのかおりをかがれ、主は心の中でこう仰せられた。「わたしは、決して再び人のゆえに、この地をのろうことはすまい。人の心の虚構心の思い計ることは、初めから悪であるからだ。わたしは、決して再び、わたしがしたように、すべての生き物を打ち滅ぼすことはすまい。

虚構: 人が自ら造りあげ、妄執したもの

6:6 それで主は、地上に人を造ったことを悔やみ、心を痛められた。@主の憐れみ

悔やみ 知恵に関して  
心を痛める 愛に関して

587

エホバは決して悔やまれない、なぜなら永遠からすべてを概括的にも個別的にも予見されるから。主は人を造られたとき、すなわち新しく創造されるときも、さらに人を天的になるまで完全にされるときも、主は、時間の経過に従ってここに書かれたようになるときもまた予見されていました。主はこれも予見されていたので、悔いることはありません。

サムエル I 15:29 実に、イスラエルの栄光である方は、偽ることもなく、悔いることもない。この方は人間ではないので、悔いることがない。」

主・エホバの憐れみは人類に対して主がなされることすべてを含む。

- ・罰されることをお許しになる: 罰する悪がすべて善となるよう憐れむ。
- ・善の楽しみを与える: 善に値しなくても憐れまれる。
- ・地獄からお救いになる: 人は悪である地獄に向かっているのを憐れむ。

主は誰一人として必要とされない。

人は自分の功績・善を誇れるような立場では全くない！

人を地獄とその悲惨さから救いだすことから憐れみと名付けられている  
人類はすべて悲惨な状態であり、憐れみは彼らすべてへの愛の結果である。  
主の憐れみ 人の理解を無限に凌駕している。

588-

主の悔いる(知恵)・哀しむ(愛)は、全く人の側から見た外観。

人が主の憐れみから自らをそらす。主は決してそらされない。

試練にあつて、人が苦しむのは、実は人が主から離れようとしているため。  
主が見捨てられたのではない！

主の祈り「私を試みにあわせないで、悪からお救い下さい」  
人が悪に惹かれ、主から離れようとするのが試練。  
心ひかれている悪を、主に頼って断ち切り、主に返れば、平安がやってくる。

589 預言者の書、特にイザヤ書では、  
霊的な表現と天的な表現が、二重になって、あらゆる箇所に現れている。  
主の憐れみの霊的なものが知恵であり、天的なものが愛である。

6:7 そして主は仰せられた。「わたしが創造した人を地の面から消し去ろう。人をはじめ、家畜やはうもの、空の鳥に至るまで。わたしは、これらを造ったことを残念に思うからだ。」@彼らの我欲と妄執は致命的であることを証明しなければならない

エホバは仰せられた。私は人を滅ぼそう。:人は自ら滅んでしまう。  
私が創造した者たちを、地の表面から:最古代教会の子孫  
人と獣と這うもの:意志に属するものは滅んでしまう。  
天の鳥;知性や思考に属するもの

592

エホバについて語られることはすべてそのご性質を正反対となっている。

- ① 主があらゆる事柄を、概括的にも個別的にも支配され配置されていると知るため
- ② 主からどんな悪も出てないことを知るため。いわんや殺すことなどありえない。  
そしてそれは悪を自らにおこした人が行い、自らを滅ぼし破壊している。  
しかしそれも実は人ではなく、人をそそのかし導く悪霊が行っているが  
人は自分が行為者だと信じている。

他生では、悪は悪をおこした者に復ってきて、悪の罰となる。それは悪の改善のため許されているという。しかし主はあらゆる悪の罰を善に変えられる。  
善以外のものは主から出てこない。

6:8 しかし、ノアは、主の心にながっていた。@新しい教会が起こらねばならない

ノア: 古代教会

善の感知とそこから派生する真理の感知: 感知力 天的な者

善と真理を意識: 良心 靈的な者

最古代教会は主から即時、啓示された。靈や天使を介して、あるいは幻や夢を通して

① まず、善と真であるものの一般的な知識が与えられる

② これらの一般原則は、無数の個々の事柄、個別の事柄を感知にすることによって確認される。そうであるか、そうでないか。

最古代教会の一般原則とは、

- ・主が宇宙を支配される
- ・あらゆる善と真理は主から発する
- ・すべての生命は主から発している。
- ・人固有のものはすべて悪であり、それ自身は死んでいる ……等々

無数の事柄が感知され、この一般原則を確認し、証拠となる。

6:8 しかし、ノアは、主の心にならなっていた。

598

エホバの目に、ノアは恵みを得た。:主は人類が救われることを予見された。

ノア教会とは、新しい教会であり、その教会の信仰であり、それは仁愛の信仰であった。

慈しみ:天的な者 天的な者は慈悲しか認めない

恵み :霊的な者 霊的な者は恵みしか認めない

これは卑下の度合から生まれる。

心を卑下している者は慈悲を嘆願する。

思考を卑下している者は恵みを嘆願する。もし彼らが慈悲を嘆願するなら試練にいるときかあるいは口先だけからである。

エレミア31:2 主はこう仰せられる。「剣を免れて生き残った民は荒野で恵みを得た。イスラエルよ。出て行って休みを得よ。」

31:3 主は遠くから、私に現われた。「永遠の愛をもって、わたしはあなたを愛した。それゆえ、わたしはあなたに、誠実(慈悲)を尽くし続けた。

6:9 これはノアの歴史である。ノアは、正しい人であって、その時代にあっても、全き人であった。ノアは神とともに歩んだ。

6:10 ノアは三人の息子、セム、ハム、ヤペテを生んだ。

6:11 地は、神の前に墮落し、地は、暴虐で満ちていた。

6:12 神が地をご覧になると、実に、それは、墮落していた。すべての肉なるものが、地上でその道を乱していたからである。

6:13 そこで、神はノアに仰せられた。「すべての肉なるものの終わりが、わたしの前に来ている。地は、彼らのゆえに、暴虐で満ちているからだ。それで今わたしは、彼らを地とともに滅ぼそうとしている。

6:14 あなたは自分のために、ゴフェルの木の箱舟を造りなさい。箱舟に部屋を作り、内と外とを木のやにで塗りなさい。

6:15 それを次のようにして造りなさい。箱舟の長さは三百キュビト。その幅は五十キュビト。その高さは三十キュビト。

6:16 箱舟に天窓を作り、上部から一キュビト以内にそれを仕上げなさい。また、箱舟の戸口をその側面に設け、一階と二階と三階にそれを作りなさい。

6:17 わたしは今、いのちの息あるすべての肉なるものを、天の下から滅ぼすために、地上の大水、大洪水を起こそうとしている。地上のすべてのものは死に絶えなければならない。

6:18 しかし、わたしは、あなたと契約を結ぼう。あなたは、あなたの息子たち、あなたの妻、それにあなたの息子たちの妻といっしょに箱舟にはいりなさい。

6:19 またすべての生き物、すべての肉なるものの中から、それぞれ二匹ずつ箱舟に連れてはいり、あなたといっしょに生き残るようにしなさい。それらは、雄と雌でなければならない。

6:20 また、各種類の鳥、各種類の動物、各種類の地をはうものすべてのうち、それぞれ二匹ずつが、生き残るために、あなたのところに来なければならない。

6:21 あなたは、食べられるあらゆる食糧を取って、自分のところに集め、あなたとそれらの動物の食物としなさい。」6:22 ノアは、すべて神が命じられたとおりにし、そのように行なった。